第６回清水町みらい会議要旨

○開催日　令和２年 11 月６日(金)

○会　場　清水町役場４階　第１会議室

○出席者(委員)

・岩崎 清悟　座長　(静岡ガス株式会社　特別顧問)

・中山　　勝　副座長　(一般財団法人企業経営研究所 理事長)

・川村結里子　委員　(株式会社結屋 代表取締役)

・鈴木　誠一　委員　(株式会社エステック 代表取締役)

・矢嶋　敏朗　委員　(日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 准教授)

・長倉　一正　委員　(有限会社長倉書店 代表取締役)

○欠席者(委員)

・植田　勝智　委員　(ファルマバレーセンター　センター長)

・三船美也子　委員　(一般社団法人日本親子体操協会　理事)

清水町におけるこれからのまちづくりの方針について検討を行った。

１　「プラスワンのまち」

・コンセプトとして「プラスワンのまち」が良い。

・内部の既存資源に目を向け、新たな意味づけを行うことで経済価値が生まれると考える。それには、実行できる組織やリーダーシップが課題である。今まで地域で活動してきた人々と、新しい経済価値を作るプレイヤー[※1]とが競争的な議論をしながら新しい価値を作る必要があるため、プレイヤーが地域外の人だとしても、リスペクトしサポートしていくべきだ。

・清水町の独自性、優位性を明確にすることで競合地域との差別化を図り、清水町に適した層を見つけていく必要がある。ターゲットとなる人達のベネフィット[※2]は何かをしっかり考えなければならない。我々だけで考えるのではなく、そこで活躍する人たちの考え方を採り入れる必要がある。

・「プラスワンのまち」というコンセプトには「教育」がその根底にある。

子どもでも、高齢者でも、全ての方が教育に関わり、教育する側も実は教育を受けているというイメージだ。具体的な内容としては、大学とのコラボレーションやＡＬＴの活用、クリエイターの招聘等が挙げられる。その他にも、日本一のプログラム数を誇る英語の特区[※3]を作ったり、教育としてドローンの研修をやったり、特徴を付ける。アワードを作って町内を良くしてくれる人を表彰するというのも良い。こういった教育を軸とした“プラスワン”が生まれると、最終的に住みやすい町になる。
・教育というのは生活、暮らしに不可欠なテーマなので、趣味や文化も含めた幅広い概念で捉える必要がある。

２　他の地域と異なる特色のある教育

・公立の小中学校が特徴を際立たせ日本一になれば、多くの人が移住してくると思う。
・教育の問題への取り組み方は難しいと思うが、清水町で他の地域と違った教育が受けられると良い。外国人が多いことをうまく生かした形にできないか。
・今、スタートアップ[※4]が増えている。スタートアップの人たちが、もし清水町に在住したら、教育に対する刺激になる。先進的な人たちが近くにいるということだけで町が変わる。町の施策としては、そういう人たちが来てくれる環境をどう作るかだ。
・柿田川を上手く生かし、スタートアップの人たちが、シェアオフィスのような感覚で仕事ができるような場を提供するのも良い。

３　「はじまりのまち 清水町」

・尖りをどこで出すか。選択と集中をし、どうやって違う土俵で戦うのかを考えることが必要だ。ブルーオーシャン[※5]とまではいかなくても、他がやっていないところに着目しなければいけない。
・この町に関わりをもつ人の全てを応援する「はじまりのまち」というのはどうか。柿田川が湧き上がる町で、年代も性別も関係なく、関わりを持つ人すべてを応援します、というメッセージを出す。
・教育を通じて、人とのつながり、人との関係性、幸福度を上げるといったようなことをこの町で実現してもらうことが大切だ。そのためのヒト・モノ・カネの支援を、町だけでなく、金融機関や団体とも連携して行っていく。すべての年代に地域キャリア[※6]教育と地域教育を支援していく必要がある。
・キャリアというのは生き方そのものだ。今の課題は、子どもは子ども、大人は大人、とキャリアが分断されていることだ。企業プログラムだけではなく、地域でも自分たちはどう暮らしてどう働いていくのかを考え

る環境も大切だ。
・分断しないというのは一つのテーマだ。何がしたいか分からないという人にも、色々なステップをリンクさせながら提示できると、「はじまりのまち」というコンセプトが立ってくると思う。
・昔は、親が働く姿を子どもたちが見ていた。今はそうではなく、職場と家庭が全く離れている。キャリア教育が足りないため、機会を作って補う必要がある。

4　学生を戦略的に町に取り込む

・学生にアンケートをとったところ、「清水町に住んでみたい」と答えた学生は24%くらいいた。いかに「住んでみたい」と思った学生を実際に呼び込むことができるかを戦略的に考える必要がある。住まわせたり連携を持ったりして、良い町だというのを刷り込むことが必要だ。
・学生が清水町に住んでみたい理由は、圧倒的に“自然”が多い。自然については清水町の強みである。逆に「活性化するのに何をすべきか」については、「交通の利便性を高める」が圧倒的に多い。学生にとっては交通が便利な方が魅力的だということだ。
・現在、大学で高校生向けのマップを作っており、受験生が見る。清水町の情報をマップに盛り込めば、産学連携で学生を上手く使ったり、清水町に住まわせることができる。
・(当社では) インターンシップに対して交通費などを支援している。東京 23 区内でこういった助成を行っている区もあり、町としてそういった取組も面白いと思う。

5　町外の人の声を聴き、ターゲットを探る

・町外の人の意見は大事だ。アンケートというと町民が対象になりがちだが、清水町が本当に住みやすい、アトラクティブ[※7]な吸引力のある町なのかを見定めるには、清水町内の住民でなく、町外の人を対象にした調査を行う必要がある。また、年代別に問う必要もある。
・町にとって誰がターゲットなのかを見極めることが大事だ。

6　バス交通の充実と「ウーバー」型サービスの導入

・交通手段は今後(車を運転しない)高齢者の増加とともに課題となる。
・サントムーンをバス交通のハブ[※8]にできないか。
・最大の欠点は交通網形成が難しいことだ。タクシー会社とうまく連携しながらウーバー[※9]を導入していく手もある。

7　子育てとともに、趣味を楽しみ、人生を楽しむ舞台に

・北には富士山、東には箱根、御殿場、西に駿河湾、南に天城があり、山間部の中の平地で、趣味を楽しみながら子育てできるのが清水町の特徴ではないだろうか。近くの公園で趣味を楽しみ、人生を楽しめる、というのがキーワードだ。

・若い子育て世代は、住む場所に必要なものというと、ショッピングモールを挙げる。サントムーンは県内でも大きいし、買い物のしやすさに必須のショッピングセンターがあるのは売りにできる。

・子育てをする際に重要だと考えらえるのは、病院と教育だ。

・若者を集めるにも子育てするにも公園は必要だ。

・清水町は平坦なので丘陵地に大規模公園を整備するのは難しい。しかし、近隣公園のようなものがくらしやすさの欠かせない要件になる思う。

※１　**プレイヤー**…人、組織
※２　**ベネフィット**…利益
※３　**アワード**…賞
※４　**スタートアップ**…比較的新しいビジネスで急成長している企業
※５　**ブルーオーシャン**…競争のない未開拓市場
※６　**キャリア教育**…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す教育
※７　**アトラクティブ**…魅力、引き付けること
※８　**ハブ**…中心地、結節点
※９　**ウーバー**…アメリカ合衆国の企業であるウーバー・テクノロジーズが運営する、自動車配信ウェブサイトおよび配車アプリ